

# 日産厚生会玉川病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。

研究課題名（研究番号） 郵送物、電話による胸腔子宮内膜症性気胸におけるホルモン療法の実態調査と術後再発に与える影響（No. ）

当院の実施責任者（所属） 坪島顕司（気胸研究センター）

他の研究機関および なし

各施設の研究責任者（所属）

本研究の目的

胸腔子宮内膜症性気胸（TEP いわゆる月経随伴性気胸）は好発年齢が30-40歳の女性に発症する難治性の疾患です。何らかの理由で子宮内膜組織が肺の表面や横隔膜に存在していることがわかっており、その子宮内膜組織が生理周期に合わせて脱落し肺や横隔膜に穴があき自然気胸を繰り返し発症するものと考えられています。日本エンドメトリオーシス学会のガイドラインでは手術で子宮内膜組織を切除することが再発予防の第一選択とされていますが、日本胸部外科学会の調査では日本国内で年に150人程度が手術対象になるくらいの稀な疾患のため標準治療は確立していません。また手術を行っても術後再発は他の自然気胸より多く、その一因は肉眼的に発見できず取り残した子宮内膜組織であると推定されます。

ところで骨盤子宮内膜症ではこうした取り切れなかった子宮内膜組織に対する術後ホルモン療法の有用性が報告されています。一方でTEPではこうした検討はほとんどなされておらず、ごく少数の方を対象とした報告に限られます。そのため月経随伴性気胸の治療経験が全国一豊富な当院では、より良い治療方法を研究することが責務と考えています。そこでカルテの情報からホルモン療法の意義について調査を行い、2022年1月22日に日本エンドメトリオーシス学会で研究成果を公表しました。過去にない規模である249名の方を対象とし、術後に何らかのホルモン療法を行うことで再発率を約30%から約10%まで大きく減少できることを示しました。しかしながらホルモン療法の詳しい種類や治療期間等についてはカルテ情報だけでは対象となる全ての方の調査をすることはできませんでした。

そこで術後再発率、術後再発回数に対するホルモン療法の影響を詳しく研究するため、2011年1月から2022年2月までにTEPに対し当院で手術を受けた方を対象とした調査を行うこととしました。手術前後に受けたホルモン療法の詳細な情報や再発の状況を、既に当院に通院していない方も多いため郵送物、電話で調査します。この研究は外部委員も含めた当院の倫理委員会でも審査を受け承認されたもので研究結果は学会、論文等で発表する予定です。

まずはアンケート用紙（別紙）を対象となる方に郵送いたしますので、数分～10分ほどお時間をいただきご回答の上で返信していただ

ければと存じます。同時に研究に参加したくない方がいましたら、そ  
のご要望も受け付けます。回答内容に不明な点がある時や返答がない  
場合に限り、電話による同様の調査も行う予定です。それ以外の情報  
(年齢、喫煙状況等)はカルテから抽出し、術後再発、再発回数に与  
えるホルモン療法の影響を研究いたします。

この研究を行うことで、術後再発予防に最適な薬剤、投与期間等  
を明らかにできる可能性があり、更に効果的な治療方法開発につな  
がることも期待できます。

調査期間

倫理委員会承認後から2024年3月31日まで

研究の方法  
(使用する試料等)

- 対象となる患者さま
  - ・当院で2011年1月から2022年2月までにTEPに対し手術を受けた方
  - ・アンケートやオプトアウトを行い不参加表明のなかった方

●利用する情報

アンケート用紙および電話で得られた情報およびカルテに記載のある  
診療記録、検査データを利用します

試料/情報の他の研究機関への  
提供および提供方法  
個人情報の取り扱い

なし

利用する情報から氏名や住所等の患者様を直接特定できる個人情報は  
削除し解析を行います。また、研究成果は学会や論文等で発表を予定  
していますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しませ  
ん。本研究のために収集したデータは、研究終了後5年間保管し、その  
後はすみやかに消去します。

本研究の資金源  
(利益相反)

本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません

お問い合わせ先

電話：03-3700-1151 (代表)

担当者：坪島顕司

備考